



新編水滸畫傳
六編
上

~21
875
51



875
51

唐本百回本翻譯

高井蘭山翁編譯
葛飾北齋主人畫

新編水滸畫傳 六編 全十冊

浪華書林 岡田羣玉堂製本

明治三二年
十月十日
購

新譯水滸畫傳六編總目錄

前帙五卷第六十一回より第六十七回初まで

卷之五十一

長用智とゆめて玉麒麟と嫌す
張順夜金沙灘と開け

卷之五十二

冷茶と放て燕喜主と救ふ
法場を却て石秀樓と飛

卷之五十三

宋江が玄水京城と歩
関帝後と梁山泊と取んとけ
呼延灼衣月関帝と嫌け

門
跡
卷

新編水滸畫傳卷之五十一

卷之五十四

宋公明當天に素鉞を擣ゆ
托塔天王着中に聖と於て
浪裏白跳水上小寛を報す

卷之五十五

時遷火をりて翠雲樓を焼
呉用智とりて大名府を取
宋江を歩三軍と賞す

後帳五卷第六十七回末より第七十四回小のり

卷之五十六

関勝水火二将を降す
宋公明夜曾改市と歩
盧俊義史文恭と活捉

卷之五十七

東平府少を降して九文龍を降
宋公明義とりて双槍ねと敵
汲羽箭石を飛せて英雄と歩

卷之五十八

宋公明糧と棄て社士と擒
忠義堂の石碑天文と更
梁山泊の英雄座次と排す

卷之五十九

柴進花の簪して禁院小入
李逵元夜小東京と闹しむ
黒旋风喬鬼と捉

卷之六拾

梁山泊雙て改と獻げ
燕喜智をりつて撃天柱と撲
李逵壽張中を喬く衙小坐を

新編水滸畫傳卷之五拾壹

東武 高井蘭山翁 譯編

○兵用智をりつて玉麒麟と嫌を

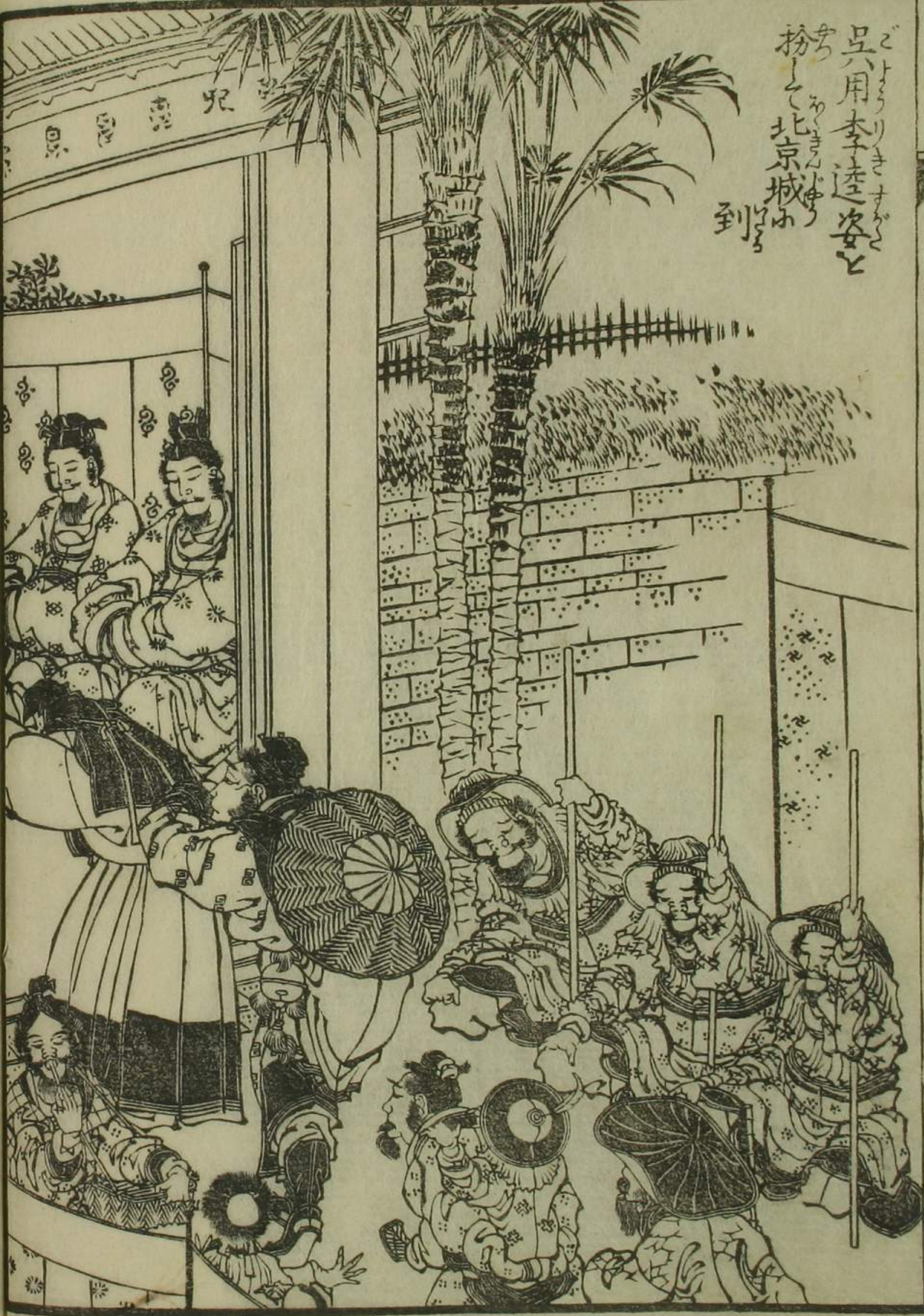
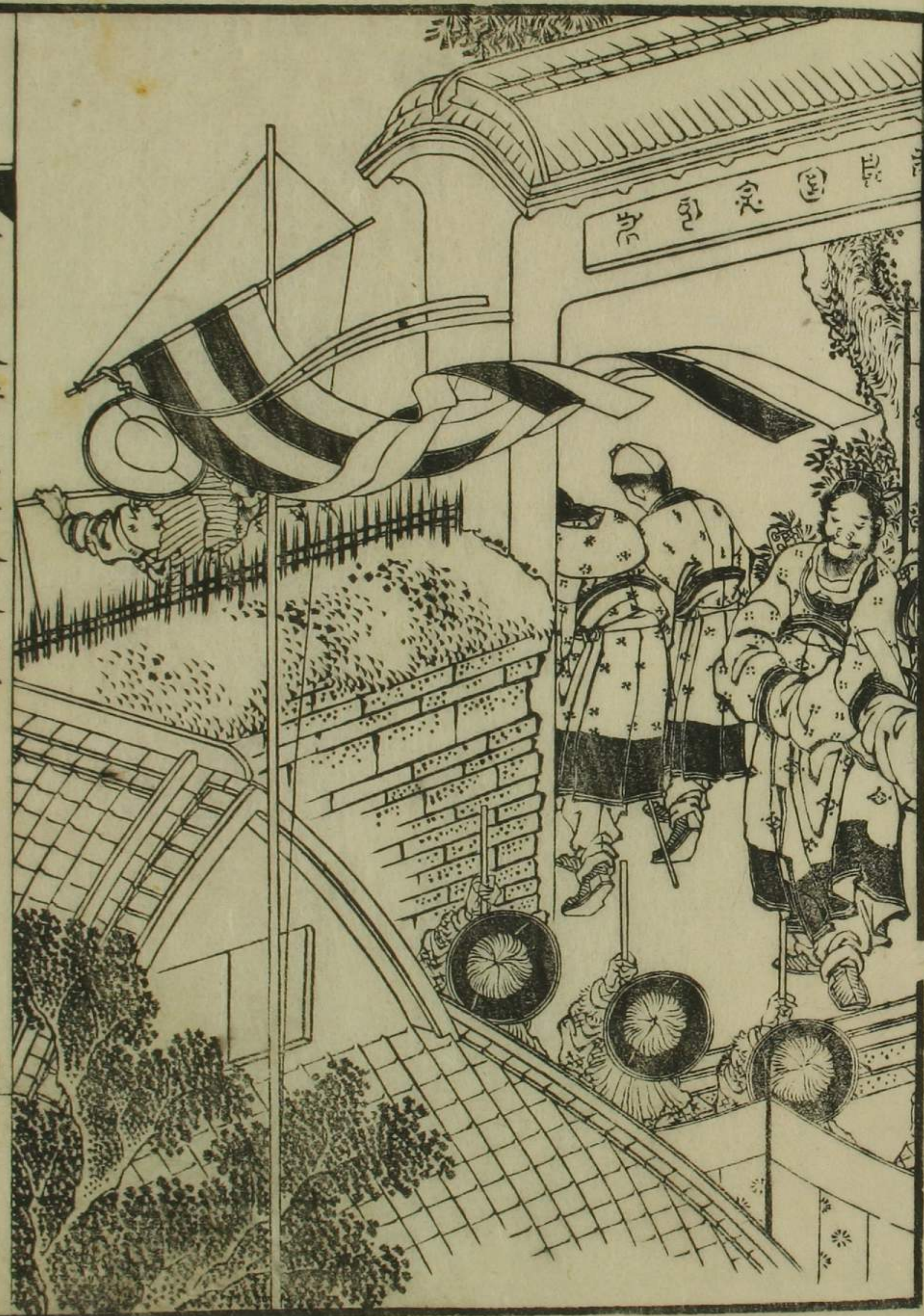
梁山泊にて晁蓋等病をり死をす。手仇を復せざれば。汝豪傑の
面くまで熱毒の折り。大圓和尚盧俊義が呼わりしより。頻りに宋江。盧
俊義が事を思ひ出。山疎小松夜思ひ入。小松兵用が計わりと云。と教を
居り。小松兵用旅籠を。須李逵を道童の形小出立せ。遂小宋江未と稱。山
と下り。宋江依改改を引。金沙灘まで送り。程更宋江。李逵を戒め。
汝兵先生のや會れ。酒を禁。瘡瘻を假ると。何ふても指揮を違。ま
さ。一刻も忘れ。意をべ。と懇に。や。宋江の。創瘡瘻の。と。懇。改。して。宋江。
兵用。引。れ。李逵。を。具。一。意。一。秘。小。不。日。に。水。系。の。城。外。に。玉。旅。籠。を。求。免。

翌日朝飯後小友人並おるが。もや城のむつにあり。以時天下四方小群賊
 起て世間静溢なき。由來徐州徐州府各軍ある。城せむ。時勢うらふ。
 唯小水河小第一の要害ありし。梁中書大軍せめては城せ落せむ。
 兵用李達遂に城門に隙さる。如に一人の友人は五十人の軍士を右に
 候へて。緊く城門をもちり。兵利を備て恭しく礼せむ。ひられ。軍士
 同て云秀文の何れの如より来りぬ。もや兵用答て素姓の張名の用と云ふ。
 八卦のトと管と。又は道童の姓の李と云ふ。假関文と云ふ。軍士に
 云ぬ。以時軍士ホ執李達せめて云ふ。この遠なき眼ざりの陰も城に似り
 と。兵皆忍びし。李達大に怒て拳と拳り。兵用暗小。瞧
 られ。李達を驚して再び低小。兵用又軍士を小向て。ひ
 り。この遠なき。兵用又軍士を小向て。ひ

既以一点も道理を知らば。後して。兵の罪を免。又と。遂に城
 中に入て。街の辺小。兵用後をりして。口句の如。と云
 甘羅發早子牙遲。彭祖顏回壽不齊。
 范丹貧窮石崇富。八字生來各有時。
 兵用自ら呼て云。所謂は。向の意。何れ。一生の禍福。右山時あり。
 運あり。命あり。生を知り。死を知り。因を知り。及を知り。果身の上の吉凶
 若知ると。同人と。欲する人。わ。先一。友の報。と。官ひ。人。と。兵願
 後と。振て。街と。奪。と。し。街中の。子。を。これ。と。若。又
 六十。後。に。随て。笑。ひ。る。兵用。已に。盧俊義。が。門。前。小。友。り。知。に。是
 子。益。弛。加。て。討。さ。る。閑。し。ぬ。盧俊義。が。人。小。官。て。云。門。前。小。友。事。出。来
 して。かく。閑。し。ぬ。人。若。て。云。休。ま。り。来。れ。り。と。云。一。人。の。先。生。街

に奔走し。一畝の銀とある人わづら八卦をトして。若忍吉凶を知りし
 めんとゆり。又一人の万巻を後へるが形醜ふして。風俗人小吳る由也。
 數十の小童後に跟てこれと笑ひ。街中を闹しゆ。盧俊義が云。八卦を
 トする者僅數十錢とこそゆゑる。彼備小一畝の銀をある。必宜
 死考の先生小わづら。汝速小引て彼先生を誘引して来れ我彼小
 官小とありと命とられば。家人遂小門前小出。兵用李逵友人を誘て
 門内に入らる。小吳用先李逵をけぬに留め。並己の願前小むて。盧俊義
 小對面に。盧俊義の尚世名譽の英雄なり。果してを挫振子人小
 誘れ。身の丈を九尺小竹。眼の光を星のど。眉の八の字ををて。
 鬚ハ腮小垂。威风凜々して。お貌堂々。兵用これを見て心中に。僕
 笑し。恭しく礼を引ひられば。盧員外も又身を躬て礼を回し。別

兵用が姓名故郷を問らるに。兵用答て。余姓ハ張。名ハ用と。小
 して。自く。後天口と号す。東來山東の者也。余よく人の若忍吉凶死
 生禍福ホのこそと。トに。おそれ。官人と欲し。わづら。先一畝の銀と与へて
 同定。毛皮も差ふと。わづら。盧俊義とれと。即ち一畝の銀と与へて
 云らる。君子ハ災いと。官て。福を官に。况や我おの災し。うづら。孫福也
 官小及む。只眼希のこそと。トひ。此我ハ今年三十二歳。うづら。甲子
 の年乙丑の月丙寅の日丁卯の時。小せられて。尚病ホの患もなう。とて。
 八卦を頼られ。兵用一ツの鉄算と。九半。八卦の面と良久。うづら。考へ
 忽ち算を放ち。わづら。怪哉と。ゆり。盧俊義とれと。即ち大。小算。と。我
 卦何の吉凶と。多ると。問ひ。られ。兵用答て。負外。疑ひ。由。ず。ん。む。余
 小川。お。小。是。と。若。り。さん。盧員外。が。云。先生。ハ。是。迷。ひ。の。乃。と。指。教。へ。り。



吳用李逵等
 到
 北京城

するに我何ぞれと疑んや速に吾凶と知りて
 不祥之百日の内を出づして必ず血光の災出來し死と刀劍の下に
 遂有ふとわらん嗚呼笑止やと知りて盧俊義も敢て赤笑ふ
 先生差り我小京に生れて富貴のあふまど先程より犯法の男女を
 親族小再婚の女を一押且我平生と薄情で非乃の事とさきぞ不
 義の杖と多に況や一帯の男女盗とさだむとさきぞ何由か
 血光の災あらんや我悔ふこれと後世に心中小冷笑ぬ吳用も
 啼て容と改め及と愛し子速かの壹両の銀と還して嘆息する
 天下の人皆痛と恨んで今も耳に逆ふこそ恨まれとも已小列れと
 若てぬんとししりり盧俊義も見て驚く先付とと扯ぬめて云
 乃の我今云し云ハ初て戯れん先生宜しく怒と息す我肯て先

生の教へに従ん吳用が云員外誤て我を疑ふべし員外の運
 命今まで大に好くしうとも今年の運極て悪く僅百日の内小血
 光の災出來して死と脱れぬべし盧俊義が云初ていなる
 正とめては難と避んや吳用これと啼て再び鉄筆を弄かす故
 半時申考て云ら員外の以難と避らん小の東南の方子星外不
 移りひつまたん能脱れぬべし初少一驚さるふとわらん後れ
 号解と傷ふに及ぶべし後必も安さると好ぬべし命中に何
 の卦歌あり我今是と写させ進すべし後伏に何の符に驗わらん時
 来が云の灵感なるぞ悲ひ合を以て利に何の卦歌と云ふ員外
 等もと云考て自ら白髪小書に

蘆花叢裡一扁舟

俊傑俄從北地遊

義士若能知此理 反躬逃難可無憂

盧俊義書早れば。異用の殊策を收納め別れを告ぐる。盧員外門前を送り出さる。異用又他日來るべしと一札を叙遂小李達と引く。城介の旅庵にゆり。異用私小李達小告て云らる。我が計已に切られ。大事つ成ぬ。一刻も早く山陣小馳回て用意を假へ速に盧俊義が來らんと迎ふべしと。即日梁山泊へゆり。去りぬ。盧俊義ハ八卦の凶を咄て寸心で察し。一家中の管家どもを召集する。彼の管家ホ李固と云ふ。初管小治て。早く皆懸前小立。以李固と命者ハ別して盧俊義が法恩を蒙り。僅に又年の内に於管小提拳られ。家内大小の事定ては李固えと當り。盧俊義管家をさうに。管内一人の管家見えざり。ふば老ハ何由來。さうやと。呼る。能く彼一人

の管家於て。至て共に盧員外。前に何云は。以老身の丈ハ六尺以上。うして面の長ハ髪より白く。年の比二十に又兼む。うり。之ハ老系水系の去民。うして初さ時父母を喪て孤となり。乃ル。盧俊義源これ。構。家内に書ハ。近年已に十又六兼。以て聰明伶俐。法人に傳れ。られ。盧俊義捨別に。これを覺し。彼が一身小又。色の花を刺黠。させて。風流小飾り。全解す。べて。頭後。に花を添て。さうごと。う。射さ。う。吹彈。歌舞小達。う。徳坐の。ハ。後。と。曉。う。拍假。松。ホ。の。事。一。つ。う。て。云。せ。ば。と。云。と。ま。う。ま。う。づ。く。武。藝。に。熟。練。う。て。う。く。弓。を。射。百。を。放。て。百。を。び。中。は。水。系。の。人。皆。是。と。稱。せ。さ。る。ハ。な。り。り。び。人。姓。ハ。燕。名。ハ。妻。譚。名。ハ。浪。子。と。云。ハ。時。法。の。管。家。も。友。辺。に。分。れ。て。坐。せ。つ。う。ね。り。ら。れ。た。の。方。ハ。李。固。と。首。う。右。の。方。ハ。燕。妻。と。首。う。盧。俊。義。判。然。て。云。ら。る。ハ。我。昨。日。

八卦とトして我者凶を考へしあり知れ。百日の内に血光の災出ずして
 身を刀剣の下小亡さんと云。若東南の方子里外に避行む災せ脱
 れ生せ保んとし我者ふに東南の方小泰安州の東岳泰山天齊
 仁聖帝の金殿ありて下人民の死生禍災ホと祐けりふされ。我第一
 被廟小系詣して宜しく災せ除んとせ祈る。第二は買賣の貨物
 携へて外川の風系せも遊覽すべさる。李赤十枚の車に貨物と載
 る我小陸ひ東へ燕喜の家小返て牢く勢とせられ我三日の内に
 發足す。李赤が云相公何ぞ八卦ホの虚文の詞と容ひや。赤に
 在ふふとも何の災がむりいん必ず遠く出ふとる。盧俊義が云
 我令中に定る災わに。いんぞ大膽うしてこれを避さうんや。若万一
 災ありむば後悔すとも晚うん汝汝べうく疑ふべう。燕喜を又

相公今泰安州に旅さるんふ。必ぞ梁山泊の下せり。若
 今梁山泊の東へが梁山陣とせり。州郡と犯し。旅客と悩す。
 若仁聖帝の廟小系詣わんとなし。靜監の後越さる。彼八卦先
 生が孔云と引ひや。及て災出ず。彼先生は必定穢穢あても
 わる。若も。遇ざりし。最惜り。盧俊義が云。汝いんぞ祈る。云
 せりや。君子も又災と向中へ。そ夢及ぶ。我彼梁山泊の城とる
 して恰も茶茶のどし。豈これと忍れて自ら。若んや。若彼海ふ。我を
 探らとわ。ば我。先とせ。投て。我名を天下小振らん。何の不可なる
 ところわ。んと。未と云も。早らざる。風の後より。妻賈氏を。て云る
 我今相公の云と具に。夢あり。古の流。あも。外に出る。一日。おに。あり
 ぶ。と云。何ぞ。自ら。孔云と。容ひ。迷ひ。と。死。有。や。若遠國に

弛ゆひて方一深のくバ。係大ひたる。邪業一旦に廢しゆん。只冥々々々。遠く
 と休ゆひて。信公寡歎き居。静坐ふ入て齋しなり。災自り。遊く。吾事
 せん。盧俊義が云。汝女姓として。何事と。曉さん。流し。寧ろ有を
 信ずべし。そを信ずべし。信と。つり。或や古の君子ども。災を受て。自ら
 避て。擇むと。まう。多し。我ん。已に。改まる。小。汝。再。び。諒。め。と。云。と。な。れ
 と。て。教。及。畧。ね。び。ず。見。え。し。う。た。燕。ま。程。を。ひ。て。云。り。の。系。相。公。の。福
 蔭。小。倚。て。武。藝。と。學。び。ゆ。い。へ。む。途。中。不。於。て。盜。賊。ホ。に。出。遇。し。め。ゆ。
 口。入。十。人。と。い。の。追。拂。ひ。ゆ。も。ん。伏。し。て。死。く。の。李。固。管。と。お。に。め。り。て。系。と
 帶。し。て。久。盧。俊。義。が。云。汝。ハ。法。事。才。幹。と。り。と。り。た。商。賣。の。こ。の。い。ま。ご。如
 ぶ。お。わ。り。是。れ。に。我。汝。と。帶。し。が。じ。李。固。ハ。又。商。賣。の。老。榜。と。り。に。依。て。
 我。ん。と。帶。せ。ん。と。欲。け。汝。ハ。臣。と。お。に。め。り。の。こ。と。を。當。れ。と。て。燕。ま。程。が

系と准へり。り。の。如。し。李。固。ハ。是。を。受。て。来。日。者。脚。乘。せ。し。長。海。と。り。
 ぐ。く。是。へ。の。如。り。の。相。公。是。と。帯。し。て。久。盧。俊。義。是。を。受。て。忽。ち。大。小。如。り。
 云。と。養。ふ。と。千。日。そ。利。ハ。一。切。お。わ。り。我。今。汝。と。帶。し。ゆ。ん。と。欲。す。に。汝
 何。ぞ。病。小。托。して。勞。と。梓。す。や。若。再。び。我。小。背。く。者。め。は。我。受。し。て
 是。と。饒。う。と。も。拳。と。握。り。牙。と。咬。り。た。を。勢。ハ。大。ひ。に。猛。り。し。た。李。固
 是。と。忍。怖。して。面。及。土。の。ご。く。小。妾。と。再。び。言。ひ。皆。一。月。に。産。と。て。退
 き。り。の。李。固。ハ。心。中。に。怨。ま。り。う。た。自。ら。強。て。これ。と。お。び。利。十。載。の。車。に
 貨。物。と。載。て。又。六。十。人。の。車。客。と。催。し。ゆ。れ。バ。盧。俊。義。も。亦。自。ら。旅。装
 と。お。纏。へ。翌。日。又。更。の。時。分。先。李。固。ハ。二。載。の。車。を。監。押。せ。て。城。外。小。お。し
 自。ら。登。り。ゆ。に。當。つ。て。先。征。の。灵。牌。と。お。し。又。燕。ま。程。に。對。して。云。汝。様。で
 家。事。と。當。り。も。我。も。意。の。こ。わ。る。と。嚴。に。命。づ。り。る。妻。ハ。汝。と。流。し

云々の相公今千里の道往不往... 恙なくありて盧俊義がいも。百日の... 以てと遂に別離して... 盧俊義が云ぬ二枚の車小... べしとて先李固と... 馳ち右の風系と... 知小待て中食と... 未明に記て旅... ○張順夜金沙渡と用... 盧俊義日わく... の家僕出て云... 自ら月心と... 也害せむと... 告しぬれ。盧... 肉より口々の... わりそ文小い...

懐慨北京盧俊義 遠駄貨物離郷地 一心只要捉強人 那時方表男兒志 李固ホ危人ハ... 孤奈しと... 小可く云... 家なる小い... 所編水滸傳卷之五十一

授んともあつたれと尋ね小公は「お僕大に怖れて云々」
 云々のいふより先ん、梁山泊、漏れ、我が督時に獨を義也
 客もよひ千軍万馬を以て款し、向ふ堂より、彼ホに掃ゆふ
 わらんや、蓋の事をあつゆひと。盧俊義怒て、汝ら、梁山泊の賊
 と一列の者あふべし。されど先ん、作て人と、赫に、ん、お僕に云
 と、笑て、年と、返答も及ばざりり。李固も又、是と、笑て、公中に、
 恐れ、別地上に、跪て、盧俊義、小吉と云。相公、我ま、憐れ、ゆひて、恙なく
 ぬ、小圃、尚羅天、大醜と、候し、ぬん、より、も、大に、強、ん、相
 公、り、心、の、旗、を、持し、ぬ、ぬ、城、必、起、て、強、敵、小、及、べし、好、く、思、意
 と、加、ふ、と、恐れ、入、て、中、り、る。盧俊義、責、て、云、汝、懦、弱、人、何、事、せ、う、脱
 さん、梁山泊の、監城、ら、壁、方、燕、雀、の、群、を、以、て、お、ん、ぞ、う、鴻、鶴、に

敵、ん、や、我、元、万、丈、不、高、の、勇、も、只、も、功、能、と、取、り、今、日、幸、ひ
 對、子、と、汝、ん、に、我、一、身、の、衣、藝、と、敢、て、時、前、を、う、汝、ら、弱、く、ぬ、索、を
 綱、へ、て、待、文、べし、我、城、を、生、提、る、系、に、引、送、り、我、名、と、以、海、に、振、らん
 と、堂、の、内、に、振、り、る、も、汝、ら、怖、れ、を、ま、ま、あ、わ、せ、先、是、と、殺、し、て、流
 小、舟、に、せ、ぞ、と、云、先、に、板、の、車、と、並、つ、の、旗、を、挿、後、う、は、六、枝、の、車
 と、並、べ、を、奈、以、李、固、ハ、危、人、と、共、に、も、怖、を、ん、兼、及、り、り、れ、た、盧、俊
 義、小、賣、ら、れ、止、し、と、汝、に、危、皆、お、陸、て、梁、山、泊、の、旗、を、あ、り、り、弱、く、ぬ、逃
 向、ふ、の、林、の、内、より、胡、哨、響、し、り、る。李、固、ホ、是、と、笑、て、大、小、孩、さ、面、色、を
 向、つ、向、揮、ひ、慄、く、わ、り、る。盧、俊、義、法、人、小、下、知、し、く、車、を、一、辺、に、推、せ
 り、ん、李、固、と、細、と、し、く、又、十、人、の、老、者、危、皆、車、の、下、に、躲、ん、と、う、り、り、れ、
 盧、俊、義、ら、ん、と、思、て、大、小、怒、り、鞭、撻、多、く、歩、廻、り、時、林、の、中、より、お、り、又、百



盧俊義東岳

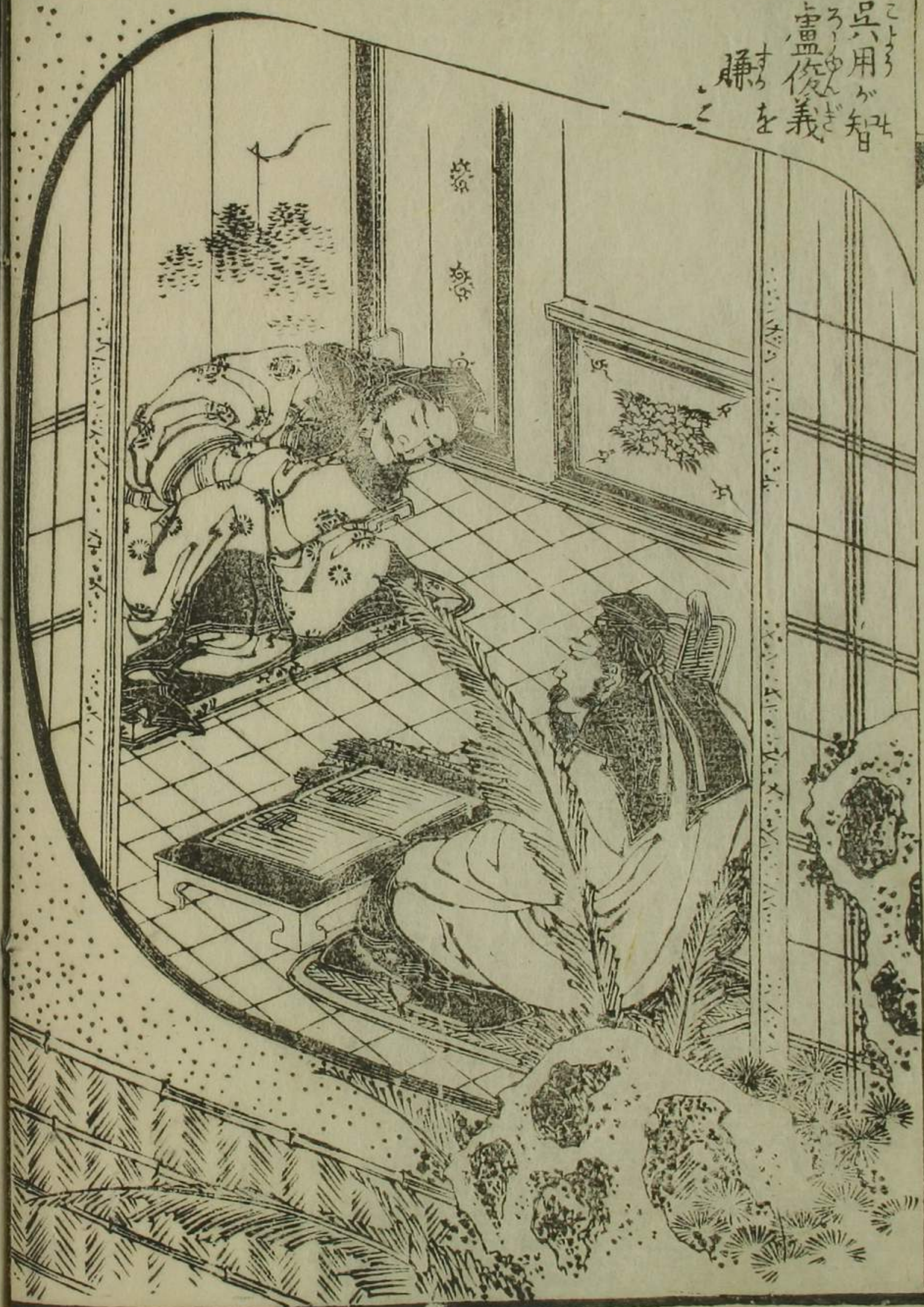
護足

妻賈氏燕青等

前途と送

新編水滸畫傳卷之五十一

十一



兵用が智
盧俊義
賺を

新編水滸畫傳卷之五十一

十一

の小城馳おしぬに。後あも又金鼓の響大に響て。同じ又百の城を去り。おの
前後より夾で逐て截るむ。又林の中に石炮の響。響に及りぬ。小馬旋風
李達躍おて。呼り及る。盧員外。日外の啞子。及事八卦。並に。使れ公の門
辺。不待ま。と。激怒ゆふ。盧俊義。これと。看て。怒り。罵て。云。我久しく。海
賊黨と。扱人と。歎し。今日。持地。いぬ。小。あ。り。ふ。く。宋江。と。出。し。降。せ
よ。あ。れ。は。お。の。一。く。そ。と。剣。て。立。ぬ。小。後。悔。せ。む。べ。し。李。達。呵。く。と。大。小。笑
て。云。員外。今日。兵。軍。師。の。計。に。中。り。尚。れ。と。も。曉。し。ぬ。ぬ。や。迷。小。山。頂。小
上。て。諸。將。の。内。小。加。り。又。後。小。我。右。の。存。公。小。儀。小。ん。り。我。小。ん。の
我。斧。と。着。て。既。と。赤。刻。ん。盧。俊。義。限。あ。く。怒。り。手。中。の。刀。と。捲。て。李。達。小
砍。て。斬。り。し。く。李。達。二。つ。の。斧。と。揮。て。ら。ん。と。お。迎。後。戦。二。三。合。し。て。林。の
内。に。逃。走。る。盧。俊。義。刀。と。奉。て。追。及。り。東。列。南。北。に。馳。回。る。初。り。ぬ。に。又。一。人

の大和尚一虎の人を引て馳來り。高らかに呼て云。員外。我を見知りぬ。お
や。盧。俊。義。罵。て。云。汝。は。何。れ。より。來。り。ぬ。織。和。尚。の。ぞ。彼。大。和。尚。亦。笑。て。云。
我。は。是。深。山。頂。の。豪。傑。花。和。尚。魯。智。深。と。云。去。之。我。今。宋。江。飲。の。命。と
奉。て。員。外。と。迎。小。俊。く。山。頂。小。上。り。又。盧。俊。義。と。怒。り。汝。何。ぞ。く。と。云。礼
と。云。や。と。て。刀。と。捲。し。て。斬。て。う。り。戦。い。ま。ど。に。不。合。小。あ。り。ぞ。に。智。深。も。同。が
逃。走。る。盧。俊。義。呵。く。と。亦。笑。ひ。汝。何。ぞ。云。よ。是。ん。我。小。款。せ。ん。と。思。小。あ
の。ふ。ふ。く。來。て。務。負。と。受。せ。よ。と。呼。り。知。小。武。り。も。あ。刀。と。揮。て。砍。て
斃。る。盧。俊。義。これと迎へて。二。三。合。戦。い。し。ら。ば。我。行。志。も。又。逃。回。る。盧。俊
義。大。に。冷。笑。て。呼。り。及。る。汝。強。賊。何。ぞ。一。人。も。我。小。款。す。者。多。き。や。和。と
知。し。ん。素。を。逃。れ。を。出。て。我。刀。の。鋼。を。強。よ。と。い。ま。と。云。も。強。く。ぞ。ぬ。山。頂
の。上。に。一。人。の。大。お。あ。り。大。喜。勢。に。呼。り。云。及。る。ハ。盧。員。外。何。ぞ。自。計。に。陥

ころせ知らざるや既にそ脱れ出らん海もわらざりに宜しく山陣より
 上りて盧俊義を尋ねて問て云汝を推するぞ彼大将亦笑て云我は是
 山陣の所於赤鬚鬼劉唐と云ふ之盧俊義忿然として大に怒り軍械
 をふるふと云ふとて刀を舞ひ跳りて劉唐と力と合せ仰け致し盧俊義少しも
 ぬに没遮搦搦弘馳来り劉唐と力と合せ仰け致し盧俊義少しも
 拍す勇を振て勵む致し時前背後より又撲天鵬李夜刀と拳て
 跳鬼り三人齊しく盧俊義小欲以盧俊義三人と迎へ一息も慌れ精神益
 盛めて二十餘合戦りぬに山の上の令を鳴しりれむ三人の既於一度
 に引て罷去り盧俊義集燥て二百歩をう退しり終て退るは
 再び林の辺小を回て被十枝の車を為りひるふ車も人もわらざり
 り盧俊義大に驚きささぬに能より下とぞなり小遙山坂の下に

其の干の小賊も被車を煮えて李固も數十人の法を絆め續々鳴し
 鼓を振て松林の辺に推てゆ盧俊義これを見て怒り心腹より怒り恰
 も奔雷の如く吼て山を起り漸近く辱むる如し又友人の大物を
 出盧員外ゆれ小狂なりやと叫りり此支將は吳舞公朱全神如虎
 雷撲之盧俊義これを見て大に怒り罵りり此海城もさ車
 と人とて還せざる退くせば我今ゆくと殺すべし朱全聲と拵て吟々
 と赤笑ひ盧員外汝已にけ場小あり何ぞ呉軍師が計に誘はれ
 らるぞ知り路のさや員外能ひ二つの却て生ト有ふぞ飛出んこと疑
 うらんよ山陣小上て使豪傑と共小大義小聚りゆ此れ小先列
 たり山陣の門傍退く戦へす実また爾ん心の志一人もなす月傍
 惟一人武藝小暗れそのあらん我す逃るべめてもそを解し更

盧俊義怒一擧うて刀を揮て砍て蒐ふ。朱仝雷横各軍器を
 拳て三人隊を交へ戦ひ二三合小ぬり。朱雷両將又身と回して逃る。
 盧俊義あはけ友人を殺さずんばいんを車と奪ひ回らんやとて刀を
 揮て山頂に退出りぬ。朱雷あわわももえさうりり。いん山の上
 より一面の美態あはれ。替天行道と云は字と書。宋江。呉用。公孫勝二
 百餘人引て走り。一齊に叫り云らる。盧員外怒と息。盧俊義
 これを見て。孫罵り。一。兵用。徒て云員外。何れ。怒り。あや。宋公
 明。あ。員外。の。法。徳。と。慕。ひ。別。系。に。作。せ。て。か。の。下。に。引。て。あ。う。め。
 いんを。して。員外。と。山。頂。に。あ。ん。と。欲。は。あ。う。う。員外。徳。と。慕。ふ。の。報。
 を。報。す。あ。ひ。て。山。頂。に。足。と。あ。め。あ。ん。や。盧俊義。大。小。罵。て。云。汝。奸。賊。
 いんぞ。我。を。誑。さ。し。ぞ。我。等。は。汝。が。身。と。別。べ。さ。ぞ。小。李。廣。花。榮。宋。江。

背後より弓矢を擡て躍りかたせしめて叫りらる。盧員外。海。再。三。
 武勇に誇ること多し。箭を擡へて盧俊義の笠の纓を射。矢一。
 盧俊義初ては。一矢小撃。さ。急。よ。力。を。回。して。走。り。行。時。山。の上。に。
 又鼓の如く。小振ひ。豹子。及。林。冲。霹。靂。火。秦。明。各。一。彪。の。人。を。引。て。
 東山の辺より砍て。又。双。鞭。將。呼。延。灼。金。輪。子。徐。寧。同。く。一。彪。
 の軍を引て。西山の辺より砍て。出。旗。を。振。喊。を。作。て。馳。り。盧。俊。
 義。は。猛。勢。を。見。て。い。ま。慌。て。は。方。に。跑。り。及。び。た。文。に。
 一。箭。の。後。も。な。り。り。時。天。色。暗。く。晚。て。殆。ど。飢。小。疲。れ。久。
 盧俊義。辛。苦。小。逼。り。独。自。小。隊。を。望。て。走。り。行。は。知。れ。と。振。れ。く。
 前後。して。前後。た。た。え。ん。か。さ。ざ。り。ら。ん。バ。盧。俊。義。暗。に。嘆。息。し。
 這。く。鴨。嘴。灘。の。辺。に。あ。り。一。人。の。漁。夫。小。船。を。

漕で出来り。初盧俊義を尋で呼り云々。友人何ぞかく大膽なり
や。此れは、梁山泊の蔡九をして強賊の出波、夜中に徘徊す。い
自ら突と折さぬ。いれり。盧俊義が云我保ては、此れは、路と先
て引懸り、汝我を救り、や。漁人云、けより二十餘里を連れて。人にか
其乃、難て、汝が、一、若、船、後、より、舟、と、さ、る。後、に、又、里、小、さ、な、し、て、容、易
往、來、に、多、く、人、十、貫、の、錢、を、与、へ、ぬ。魚、獵、と、止、て、背、て、船、を、借、り、ん。
盧俊義が云、汝、の、我、を、誑、して、人、殺、す、不、可、し、ぬ。我、十、貫、之、の
外、餘、を、賞、錢、と、施、す、べ、し。お、く、船、と、着、て、乘、せ、よ、と、呼、り、し、う。彼
漁、人、船、を、岸、小、著、初、ち、盧、俊、義、と、船、に、投、け、乗、せ、遂、に、三、五、里、な、り、
漕、り、り、ぬ。に、芦、葦、の、肉、より、一、艘、の、收、船、出、る。船、の上、より、あ、人、の、漢、子
あり。一人、櫓、と、揺、一人、の、篙、と、撐、て、さ、ら、ら、の、歌、て、曰、

生來不會讀詩書

且就梁山泊内居

準備窩弓射猛虎

安排香餌釣鰲魚

盧俊義、秋のまを察して、まを驚かす。只、お、も、な、さ、げ、し、て、劫、奪、を、窺、
ひ、り、り、傳、り、ぬ。に、又、一、艘、の、小、船、漕、來、る。同、じ、く、あ、人、の、漢、子、亦、亦、こ、れ、も
亦、歌、と、歌、ふ、て、曰、

乾坤生我潑皮身

賦性從來要殺人

万兩黃金渾不愛

一心要得玉麒麟

盧俊義、んと、言、て、大、小、驚、き、後、悔、何、ぞ、帝、弟、千、の、ま、り、ん、や、又、尚、
先、一、艘、の、收、船、漕、來、る。船、の、上、に、一、人、の、漢、子、立、ち、て、同、じ、く、山、歌、を
う、た、ひ、て、い、ふ、

蘆花叢裡一遍舟

俊傑俄從北地遊

義士若能留此裡 反躬逃難可無憂

盧俊義は歌を吟じて、心中深く驚き、さういふに、三艘の船もさういふ
若中より、阮小二、阮小五、阮小七、三艘の船、一夜に漕舟に
六。盧俊義、暗におもひ、我の系水柱と、感さるに、若船中、そ彼らに犯さ
れ、必ず定張りやあふささ。別ち漢人、小向ひ船と、若おさよと云られ、漢人
らんと、嘆て、何くと、歩嘆ひ、我の是多年、潯陽、江、小、立、て、今、は、梁、山、泊、小
舟、混江龍、李俊と云者、小して、去の、漢人、小、あ、る、員、外、り、山、陳、小、降
糸、一、ぬ、ず、ん、非、命、の、死、せ、り、自、ら、く、是、を、嘆、し、ぬ、盧、俊、義、怒、り、
我、汝、に、認、れ、ぬ、る、を、恨、ん、と、刀、を、揮、て、折、て、かり、し、李、俊、を、見、て、怒、り、
水中に跳入り、り、仍、る、如、れ、又、一、人、の、漢、子、水、底、より、取、れ、如、我、の、是、浪、裡、白、跳、強
明、ん、と、ゆ、り、遂、に、船、傍、を、把、て、引、翻、し、る、に、船、底、の、天、小、胡、て、盧、俊、義、の、水

中に落入り、り、尚、世、名、譽、の、勇、士、な、れ、ど、も、水、中、に、落、入、滄、れ、り、と、張、順、水、底、小
舟、に、盧、俊、義、を、抱、き、住、り、於、て、對、面、の、岸、に、拖、上、し、ぬ、又、六、十、人、の、ま、ま、に、干
の、火、把、を、點、し、籠、束、り、盧、俊、義、を、綁、ん、と、せ、し、如、れ、戴、宗、咆、著、大、喜、小、叱、り、
呼、り、り、の、汝、軍、士、は、盧、員、外、の、弓、箭、を、換、ふ、と、さ、る、れ、宋、江、の、命、令、な、り、と、
と、て、於、て、綿、の、衣、を、ひ、て、盧、員、外、が、濕、衣、小、更、一、糸、の、轎、に、乘、り、り、山、陳、
上、り、り、知、小、希、面、小、數、十、對、の、炮、籠、現、れ、一、簇、の、人、を、鼓、樂、を、奏、し、迎、來、
前、に、宋、江、兵、用、公、孫、務、の、後、に、は、於、て、法、政、於、從、ひ、あり、宋、公、明、先、盧、員、
外、を、接、て、地、上、に、疏、ま、し、ぬ、法、政、於、も、同、じ、く、一、齊、に、船、伏、を、盧、員、外、
これを見、ぬ、と、怒、り、此、を、問、ひ、て、云、我、の、此、擒、と、なり、し、若、さ、れ、ば、速、小、一、死、を、
犯、ん、に、法、政、於、何、ぞ、大、礼、を、行、ひ、や、や、宋、公、明、く、く、と、步、笑、て、云、り、り、の、
負、外、先、陳、中、に、あり、かり、て、我、案、が、存、を、と、吟、ひ、と、と、遂、に、延、て、忠、義

堂にあり。宋江懸歎に罪せ謝して云。宋員外の大名と成て愛の耳に
 夷がどし。今日まひに威教をぬして。在確ふと云。先うの多くを風を
 犯しぬれ。伏てせしむる罪科を乞ふ。人として。恭く詫なれば。兵用も
 又身せ辱て云。乃の宋向に宋改改の命を。徒員外のを。能にあり。擅に八
 卦をトして。員外と云。如に嫌し。去進せぬ。是皆員外の徳を慕ふ。く。
 共に大義小義人と欲せし。おなれば。歎く。悲を乞て。怒り着し。多ひ。我事
 認を。准へ。宋江又盧俊義と。法て。第一位の座に。坐せし。あり。如ふ。
 盧俊義これと。解して。云。我の元。本。木。柱。不。又。の。花。と。い。ひ。解。さ。し。擣。と。なり。
 去るれば。死。解。極。し。と。す。如。る。に。何。申。か。る。事。と。以。て。我。不。戯。れ。有。や。
 宋江お笑て。云。我。豈。員。外。と。戯。れ。ひ。ん。我。為。に。員。外。の。法。徳。と。慕。ひ。渴。慕。
 是。我。を。弄。有。す。ん。ば。以。如。に。處。て。山。陣。の。ま。と。り。又。我。且。夕。法。改。改。と。

共に員外の号令を承ん。盧俊義云。我死す。宋君の命。不。從。ひ。く。は。
 と。と。云。安。し。と。見。え。し。兵。用。く。云。明日。午。の。高。儀。せん。不。今。日。ハ。せん。疲。れ。を。
 慰。め。や。え。ん。と。も。お。速。酒。宴。と。役。け。盧。俊。義。と。答。へ。し。夜。ハ。各。退。散。
 乃。り。翌。日。又。宋。江。盧。俊。義。を。法。て。大。義。堂。不。あり。再。懸。懸。歎。ふ。云。は。ハ。
 我。事。已。に。員。外。の。威。風。と。犯。し。又。も。亦。皆。徳。と。慕。す。の。事。な。れ。バ。員。外。
 これ。と。明。察。し。多。罪。と。赦。し。又。山。陣。隘。し。と。も。と。歌。由。に。法。改。改。の。
 多。志。義。の。二。字。と。解。し。ひ。て。山。陣。不。あり。人。宋。肯。て。一。位。の。坐。と。員。外。不。
 儀。へ。盧。俊。義。が。云。宋。改。改。の。言。文。に。差。り。宋。身。に。一。張。の。罪。を。願。ふ。
 家。材。あり。何。れ。山。陣。不。あり。人。況。や。大。宋。不。せ。れ。大。宋。に。死。せん。と。大。夫。
 又。始。り。て。法。改。改。不。あり。に。我。を。ん。ど。胡。廷。に。背。ん。や。と。又。以。後。不。兼。及。
 あり。乃。り。兵。用。を。ひ。に。法。改。改。又。類。し。に。法。改。改。の。事。盧。俊。義。の。つ。く。後。

新編 平家物語 卷之五十一



竹福六舟



水軍の
頭領等
盧俊義と
唐がらと

新編水滸書傳卷之五十一

十七

ざりられ兵用又云員外心を交しと為りぬすんば我妻世あへて強ち
 にぬめやせんや。然れ共教日遶るしあり。柳款待を盡すべしれとて
 作養多、云られを盧俊義これとて交て云未教日遶満せん。宛易く交せり
 家族を以消息とす。嘆憂ひやせん。迷小圃より。兵用云
 以事いんぞ難うんや。先李固小車とて与へて甲しめぬり。其族皆心を
 安んず。兵員外ハ教日遶るを後より解り。必以善心と成ハハハ
 申すとも。吳用。劉。彼。李。固。と。呼。出。し。て。同。乃。ハ。車。の。上。を。貨。物。紛。失。ハ。わ。り
 ざるや。李固善て聊も分失さしと云られ。宋江も交て大少娘ハ劉
 二嫂の大娘と李固小車へ今日山を下つて死田をせしと命し。乃ハ李固
 られとす。て。勿。ち。愛。の。醒。さ。る。地。し。て。暗。に。安。堵。の。思。ひ。と。ま。り。乃。ハ。時
 盧俊義李忠に命し。いん。汝。亦。甲。り。な。ば。我。急。さ。く。は。日。の。内。に。行。か

ぬらん。と。妻。し。く。妻。小。若。憂。と。省。う。し。め。燕。妻。の。下。も。能。傳。ふ。じ。と。
 懇に云合われれば李固豫て欣掌し。遂に列れて山疎となり。旅人小
 車に推せし。路に於おり。知小兵用又又百の云と引て。能り。李固と
 近く振て云り。ハ。汝。が。主人。盧員外。ハ。已に我軍と強定し。山疎小れ。て
 留。第。二。位。の。舟。に。坐。し。て。宋。公。明。が。次。と。云。盧員外。い。ま。ご。以。山。に。上。り。ぬ。ハ
 ざる。先。に。已に。向。く。胡。廷。小。替。く。心。あり。て。船。内。の。礎。の。上。に。は。句。の。友。詩。を
 書けぬ。彼詩の肉。ハ。一。句。に。字。と。包。え。蘆。花。叢。裡。一。遍。舟。ト。云。ハ。
 盧の字と隠せり。俊傑那能北地遊。と云ハ。俊の字と隠せり。義士手
 提三尺劍。と云ハ。義の字と隠せり。反時。顔。斬。逆。臣。頭。と云ハ。及の字と
 隠せり。以。は。句。の。内。に。盧。俊。義。及。そ。と。云。は。字。と。包。え。り。今。日。汝。が。主人
 山。疎。上。り。ぬ。上。に。近。く。大。事。と。企。つ。べ。き。乃。必。に。盧。員。外。の。回。を

忠義を以て死す。汝ら凡人が如くは殺さんと罵りしを。罪もなれば我一点の
 仁心と雷打て恙有。悔はん。誓ひては辺に來るとも。べし。と嚴小令
 曰。李固も是と笑て。及れ。慄と一向地上。不悔。伏以。兵用。又三。酒。め。く
 馳。回。る。べし。と。兵。を。引。て。海。り。上。り。し。ふ。李。固。ら。六。車。を。推。て。水。系。へ。と。急。ぎ
 ける。吳。用。又。云。と。巧。計。也。と。令。し。て。盧。俊。義。を。慰。免。す。夜。も。酒。宴。を
 設。け。款。待。と。す。一。日。翌。日。盧。俊。義。は。宋。江。吳。用。并。に。德。英。雄。亦。若。て
 云。ら。の。我。法。豪。傑。の。厚。意。致。意。て。山。陣。に。還。ぬ。す。と。い。ども。日。と。是。以。て。年
 の。て。く。う。て。寸。心。と。安。ん。せ。ど。歎。く。い。今日。別。れ。と。告。て。山。と。り。り。中。に。ん。に
 是。と。許。容。め。ら。ま。さ。く。感。ず。べ。し。宋。江。が。云。我。は。さ。び。な。ひ。に。員。外。と。親
 なり。何。ぞ。と。也。山。と。り。し。事。せん。や。明日。我。格。別。に。酒。宴。と。設。て。脚。款。待
 と。す。さん。ふ。え。と。辭。し。ゆ。ふ。と。あ。ん。と。き。日。も。遂。に。當。り。り。翌。日。宋。江

酒宴と設け。餐。意。し。と。は。六。次。の。日。を。具。用。宴。と。す。り。又。七。次。の。日。に
 公。孫。務。宴。と。す。り。約。莫。三。十。餘。人。の。既。於。毎。日。宴。と。す。し。て。盧。俊。義
 を。款。待。す。に。光。陰。梭。の。ごと。く。一。月。を。終。つ。て。一。月。を。終。つ。て。一。月。を。終。つ。て。今
 切。に。悔。ら。ん。と。我。歎。し。は。日。宋。江。が。別。れ。と。告。し。知。小。宋。江。が。云。員。外。何。れ
 再。三。飯。と。ん。と。告。ひ。ゆ。や。明日。宴。と。設。て。列。離。の。蓋。と。鈿。め。り。さん。再。と。云
 俄。小。船。し。と。告。ら。れ。今。日。の。強。て。ん。と。寛。げ。滞。留。す。べ。し。と。い。ま。ご。云。も。終
 さら。に。德。英。雄。一。夜。不。を。出。て。云。ら。の。宋。江。於。十。分。に。員。外。と。敬。ひ。ゆ。ふ
 と。も。れ。我。軍。の。又。十二。分。小。員。外。我。敬。め。べ。し。と。い。何。ぞ。只。宋。江。の。款。待
 の。と。情。め。ひ。て。柔。く。款。待。と。受。め。い。ご。ん。や。我。軍。も。亦。各。員。外。と。情。表
 に。三。盃。の。酒。と。勅。め。て。陽。笑。の。曲。と。も。歌。ふ。べ。し。と。懇。懇。に。申。り。知。に。是
 旋。風。李。達。大。者。怒。り。呼。て。云。我。一。命。と。捨。て。兵。軍。師。と。昔。に。小。弟。小。弟。

遇員外と謙して尚ほ不^レあ^レりしありに何ぞ一^レ点の款待^レき^レん我^レ等
 各席^レと稱して員外と餐^レ應^レ仕^レく別れども惜むべ^レしに^レあ^レ是^レと辞^レ
 り我^レめ^レて員外と大^レ儀^レせん^レの^レと^レて眼^レを怒^レし^レお^レと^レ勵^レして^レ叫^レり^レば
 兵用^レ大^レ小^レ笑^レて李^レ達^レは^レり^レと^レ思^レせ^レり^レて^レ之^レの^レ言^レ下^レと^レ曉^レさ^レる^レれ^レ員外
 是^レと^レ先^レし^レり^レて^レ於^レ數^レ日^レ還^レ海^レの^レに^レ徳^レ人^レの^レ心^レを^レね^レべ^レと^レ再^レ三^レ詞^レを^レ呈^レ
 り^レに^レ盧^レ員外^レ者^レて^レ飲^レ堂^レせ^レざ^レし^レ知^レし^レ神^レ機^レ軍^レ師^レ兼^レ武^レ又^レ十^レ旌^レ人^レの^レ既^レ於
 を^レ引^レて^レ大^レ義^レ堂^レ不^レあり^レ別^レ呼^レて^レ云^レる^レの^レ未^レ皆^レ員外^レの^レ徳^レを^レ慕^レふ^レて^レか^レく
 中^レに^レ員外^レの^レ事^レを^レ款^レ待^レと^レ稱^レし^レ云^レる^レを^レ忍^レら^レく^レは^レ徳^レ豪^レ傑^レを^レ輕^レく^レん^レ
 り^レと^レ恨^レて^レ事^レを^レ惹^レ出^レし^レも^レあ^レら^レん^レ形^レく^レは^レ員外^レ是^レを^レ察^レし^レて^レ兵^レ用^レを^レ云
 下^レら^レ先^レ開^レく^レと^レる^レれ^レ我^レ臣^レし^レく^レ員外^レと^レ留^レめ^レ徳^レ人^レの^レ事^レを^レ准^レふ^レし^レと^レ
 別^レち^レ盧^レ俊^レ義^レ不^レ對^レして^レ云^レる^レの^レ古^レの^レ徳^レも^レ酒^レと^レ將^レて^レ人^レ不^レ勅^レむ^レる^レ後^レ不^レ忍^レ

い^レ忘^レり^レし^レと^レを^レ云^レる^レれ^レ員外^レ何^レぞ^レ徳^レ人^レの^レ儀^レ実^レと^レ解^レし^レ終^レに^レぬ^レや^レ盧^レ俊^レ義^レ今^レハ
 辞^レし^レく^レ又^レ數^レ日^レ還^レ海^レし^レり^レし^レう^レへ^レ最^レ後^レ三^レ日^レ十^レ日^レを^レ經^レり^レり^レ盧^レ俊^レ義^レ亦
 京^レと^レ出^レる^レは^レ日^レ月^レあり^レしが^レも^レ日^レ々^レ月^レ々^レり^レし^レり^レな^レれ^レは^レ金^レ風^レ漸^レく^レ玉^レを^レ冷^レか
 くと^レ已^レに^レ中^レ秋^レの^レ節^レも^レを^レく^レ盧^レ俊^レ義^レ亦^レの^レ家^レを^レ思^レひ^レ又^レ別^レれ^レと^レ告^レげ
 らん^レと^レと^レ然^レひ^レし^レ宋^レ江^レ是^レと^レ辞^レして^レ云^レ員外^レ切^レに^レ悔^レし^レんと^レあ^レる^レと^レ再^レび^レあ
 ち^レえ^レん^レは^レ及^レて^レ吾^レ孔^レを^レ明^レ日^レ金^レ沙^レ灘^レに^レ於^レて^レ別^レれ^レと^レ告^レる^レふ^レく^レ月^レを^レと^レ調
 ら^レぬ^レと^レ諾^レし^レる^レれ^レ盧^レ俊^レ義^レ亦^レと^レ限^レは^レし^レ翌^レ日^レ宋^レ江^レ徳^レの^レ豪^レ傑^レと^レり^レ不^レ盧^レ俊
 義^レと^レ送^レり^レ金^レ沙^レ灘^レに^レあり^レ一^レ盤^レの^レ金^レ銀^レと^レ將^レて^レ殘^レし^レり^レし^レ盧^レ俊^レ義^レこれ^レを
 辞^レして^レ云^レ我^レ自^レ誇^レて^レり^レあ^レら^レば^レ家^レ留^レて^レ金^レ銀^レを^レ一^レく^レり^レし^レる^レが^レ金^レく
 是^レと^レ更^レに^レ及^レび^レて^レ路^レ費^レを^レり^レ殘^レめ^レを^レ傳^レは^レる^レく^レ還^レし^レり^レ宋^レ江^レに^レお
 其^レ依^レる^レ愈^レ々^レ盧^レ俊^レ義^レ不^レ別^レれ^レ山^レ殊^レ不^レ引^レ入^レり^レ是^レより^レ故^レ不^レ悔^レり^レて^レい^レふ^レ言^レん

次巻と見て曉はべし

此の巻に用盧俊義が宅の白壁小卦款を書せし條と貼し添ふるを
 せしむる也。扱又李俊が船に乗て佐の船小款を待てて發しと云知小又
 此詩と出し唯三句目知此理と云ぬと留此裡と云しと變らるる末に
 山陳とて吳月李固と遊掛とめて汝が主人系及心あて宅の壁小反待
 と書しとるその句毎盧俊義及と云は字と包てありとては句の義と云はぬ
 第一の句のそ外一句ハ大小齟齬しとれ其を場まはる句とて的商それば是ヤツ
 の詩不書改がと系他心の不意と云ふ
 先板通俗主義水滸傳不盧俊義が發に吳用が書とるわゑ支那の本で伏す
 小兒強とると云ふは卷初て通俗主義水滸傳ハ不と飛くに見遠おわり。又と位
 盧俊義と山陳不迎る如に一系の橋と八系の轎とのりぬ根の形の橋と人

解すべし。此の詩譯ハ皆百回をみて悉く改正してあり
 備者いも盧俊義の大丈夫とて婦女のてく八卦の山小妻はされ自ら身と温ハ
 妻の賈氏李固燕妻が思ふも遙小劣りし人物之且身一分の武勇不護し大
 勢の豪傑不遇て生捉んと思ふも思ふも孟子云匹夫の勇一人不款する
 と云る教を李達曰格の勇者之何行武藝不達し劉勇の人を其女姓や
 衆人の思ふ程も分別る者也宋に徐く渴患第一の位で徳人ととてりふと
 何も肯がれたる盧俊義は全く威風凛凛の堂として大將の意も使へる
 君子とて一己の武藝は自負すると八卦の統向と除とてハ此の元の花は及
 惜いものと又盧俊義は員外の友人とて高ひせすとて孟州牢の管受の息施恩
 枝活林の海賊とると云教して士と商と兼るハ支那の風なりと云や

